

# 琉球弧・西日本で進む準戦時体制

## 愛知で進む兵器生産

2022年12月16日、岸田政権は敵基地攻撃能力の保有を柱とした安保3文書を閣議決定し、敵基地攻撃ができる長射程ミサイル＝スタンド・オフミサイルの購入や開発・配備などを進めています。

2025年7月28日(月)の時事通信による報道では、防衛省は12式地对艦誘導弾能力向上型(射程約1000km)を2025年度末までに熊本県健康軍駐屯地(福岡から南約100km)に、2026年春には大分県の由布院駐屯地(福岡から南東約100km)に、将来的には沖縄島の勝連駐屯地にも配備する予定です。

下記の図より台湾海峡や上海、ピョンヤンやウラジオストクまでが完全に12式地对艦誘導弾能力向上型の射程範囲内であることが分かります。

また2025年からは射程1600kmのトマホークも配備が開始され、射程2000kmの新地对艦・地对地精密誘導弾の開発も開始されました。

これらの兵器が周辺国にとって「軍事的」脅威であること、また憲法9条および憲法前文の平和主義に反することは明白です。

### 長射程ミサイルがもたらす中国・ロシア・朝鮮への「軍事的」脅威

